

大学番号：047

注3

[平成30年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

千葉科学大学大学院 看護学研究科

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人加計学園

令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 企画室 IR・企画課

職名・氏名 カチョウ ヨネクラ ヒロカズ
課長 米倉 大和

電話番号 0479-30-4517

(夜間) 0479-30-4500

F A X 0479-30-4518

e-mail ml-kikaku@ml.cis.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

・大学の設置の場合：「〇〇大学」

・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」

・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」

・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」

・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」

・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」

・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」

・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について

(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学研究科

＜看護学専攻（修士課程）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	30

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人加計学園

(2) 大学名

千葉科学大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒288-0025
千葉県銚子市潮見町3番

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(カケ コウタロウ) 加計 晃太郎 (平成13年1月)		
学長	(キノ イサオ) 木曾 功 (平成28年4月)		
研究科長		(イケベ トシコ) 池邊 敏子 (平成30年4月)	平成30年度4月1日、開設に伴う研究科長決定(30)
専攻長		(カジワラ ムツコ) 梶原 睦子 (平成30年4月)	平成30年度4月1日、開設に伴う専攻長決定(30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学研究科 看護学専攻 (修士課程) 修士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	2年	5人	年次 人	10人	看護学部看護学科 14条特例の実施

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超過率	開設年度から報告 年度までの平均 入学定員超過 率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	5人 (-) [-]	-人 (-) [-]	5人 (-) [-]	-人 (-) [-]	1.00倍	一倍	
志願者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]			
受験者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]			
合格者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]			
B 入学者数	4 (-) [-]	- (-) [-]	6 (-) [-]	- (-) [-]			
入学定員超過率 B/A	0.80		1.20				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	4 [-] (-)	- [-] (-)	6 [-] (-)	- [-] (-)	
2年次	/		3 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次			/		
4年次	/				
計			4 [-] (-)		9 [-] (-)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	4人	1人	平成30年度	1人	0人	学生個人の心身に関する事情(1人)
令和元年度	9人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{4} = \boxed{25} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻（修士課程）>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域健康基礎科目	コミュニティ政策論	1前		1							1
	医療経済・経営論	1前		1							1
	医療政策論	1後		1							1
	医療危機管理論	1・2後		2							2
	健康危機管理論	1・2前		2							1
	小計(5科目)	-	0	7	0	0	0	0	0	0	0
高度看護実践基礎科目	実践看護理論	1前		2		1					
	実践看護研究概論	1前	2			1					
	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)	1後		2							1
	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)	1後		2							1
	文献検討	1前		2		1					1
	実践看護倫理学	1前		2							1
	看護政策論	1後		2							2
	実践看護管理論	1後		2							1
	コンサルテーション論	1前		2							2
	実践看護学教育の理論と方法	1前	2								2
	フィジカルアセスメント	1前		2							4
	臨床薬理学	1後		2							2
	病態生理学	1後		2							2
小計(13科目)	-	4	22	0	2	0	0	0	0	0	19
地域生活支援分野看護学	地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)	1前		2		1					1
	地域生活支援分野看護学特論Ⅱ(精神看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅲ(がん看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)	1前		2		2	1				2
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)	1後		2		2			1		1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)	1後		2		1	1				1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅲ(がん看護学特別演習)	1後		2		1		1			
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)	1後		2		1					1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)	1後		2		2	1				1
	地域生活支援分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		6	2	1			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域健康基礎科目	コミュニティ政策論	1前		1							1
	医療経済・経営論	1前		1							1
	医療政策論	1後		1							1
	医療危機管理論	1・2後		2							2
	健康危機管理論	1・2前		2							1
	小計(5科目)	-	0	7	0	0	0	0	0	0	0
高度看護実践基礎科目	実践看護理論	1前		2		1					
	実践看護研究概論	1前	2			1					
	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)	1後		2							1
	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)	1後		2							3
	文献検討	1前		2		1					1
	実践看護倫理学	1前		2							1
	看護政策論	1後		2							2
	実践看護管理論	1後		2							1
	コンサルテーション論	1前		2							2
	実践看護学教育の理論と方法	1前	2								2
	フィジカルアセスメント	1前		2							4
	臨床薬理学	1後		2							2
	病態生理学	1後		2							2
小計(13科目)	-	4	22	0	2	0	0	0	0	0	21
地域生活支援分野看護学	地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)	1前		2		1					1
	地域生活支援分野看護学特論Ⅱ(精神看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅲ(がん看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特論)	1前		2		1					
	地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)	1前		2		2	1				4
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)	1後		2		2			1		1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)	1後		2		1	1				1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅲ(がん看護学特別演習)	1後		2		1		1			
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)	1後		2		1					1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)	1後		2		2	1				3
	地域生活支援分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		5	1	1			2

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域生活支援分野看護学	地域生活支援分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		6	2	1			
	地域生活支援分野看護学特別研究	1～2通		8		6					
	地域生活支援分野看護学実践特別研究	1～2通		8		6					
	小計(14科目)	-	0	40	0	6	2	1	1	0	5
育成分野看護学	育成分野看護学特論Ⅰ(小児看護学特論Ⅰ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅱ(小児看護学特論Ⅱ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅲ(小児看護学特論Ⅲ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)	1前		2		1	1	1		2	
	育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特論Ⅵ(小児看護学特論Ⅵ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特論Ⅶ(母性看護学特論)	1前		2		2					
	育成分野看護学特別演習Ⅰ(小児看護学特別演習Ⅰ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特別演習Ⅱ(小児看護学特別演習Ⅱ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特別演習Ⅲ(小児看護学特別演習Ⅲ)	1後		1		1	1	1		1	
	育成分野看護学特別演習Ⅳ(小児看護学特別演習Ⅳ)	2前		1		1	1	1			
	育成分野看護学特別演習Ⅴ(母性看護学特別演習)	1後		2		2					
	育成分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		3	1	1			
	育成分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		3	1	1			
	育成分野看護学課題実習Ⅰ	1後		2		1	1	1		1	
	育成分野看護学課題実習Ⅱ	2前		4		1	1	1			
	育成分野看護学課題実習Ⅲ	2後		4		1	1	1			
	育成分野看護学特別研究	1～2通		8		3	1	1			
	育成分野看護学実践特別研究	1～2通		8		3	1	1			
	育成分野看護学課題研究	2通		2		1	1	1			
小計(20科目)	-	0	54	0	3	1	1	0	0	11	
危機管理分野看護学	危機管理分野看護学特論Ⅰ(災害看護学特論)	1前		2		1	1			1	
	危機管理分野看護学特論Ⅱ(リスクマネジメント看護学特論)	1前		2		1	1			1	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅰ(災害看護学特別演習)	1後		2		1	3	2		1	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅱ(リスクマネジメント看護学特別演習)	1後		2		1					
	危機管理分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		2	1	2			
	危機管理分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		2	1	2			
	危機管理分野看護学特別研究	1～2通		8		2	1				
	危機管理分野看護学実践特別研究	1～2通		8		2	1				
小計(8科目)	-	0	28	0	2	3	2	0	0	2	
合計(60科目)	-	4	151	0	11	4	4	1	0	42	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
地域生活支援分野看護学	地域生活支援分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		5	1	1			2
	地域生活支援分野看護学特別研究	1～2通		8		5					
	地域生活支援分野看護学実践特別研究	1～2通		8		5					
	小計(14科目)	-	0	40	0	5	1	1	1	0	7
育成分野看護学	育成分野看護学特論Ⅰ(小児看護学特論Ⅰ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅱ(小児看護学特論Ⅱ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅲ(小児看護学特論Ⅲ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)	1前		2		1	1	1		2	
	育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特論Ⅵ(小児看護学特論Ⅵ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特論Ⅶ(母性看護学特論)	1前		2		1				1	
	育成分野看護学特別演習Ⅰ(小児看護学特別演習Ⅰ)	1前		2		1	1	1			
	育成分野看護学特別演習Ⅱ(小児看護学特別演習Ⅱ)	1後		2		1	1	1		3	
	育成分野看護学特別演習Ⅲ(小児看護学特別演習Ⅲ)	1後		1		1	1	1		1	
	育成分野看護学特別演習Ⅳ(小児看護学特別演習Ⅳ)	2前		1		1	1	1			
	育成分野看護学特別演習Ⅴ(母性看護学特別演習)	1後		2		1					
	育成分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		2	1	1			
	育成分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		2	1	1			
	育成分野看護学課題実習Ⅰ	1後		2		1	1	1		1	
	育成分野看護学課題実習Ⅱ	2前		4		1	1	1			
	育成分野看護学課題実習Ⅲ	2後		4		1	1	1			
	育成分野看護学特別研究	1～2通		8		2	1	1			
	育成分野看護学実践特別研究	1～2通		8		2	1	1			
	育成分野看護学課題研究	2通		2		1	1	1			
小計(20科目)	-	0	54	0	2	1	1	0	0	12	
危機管理分野看護学	危機管理分野看護学特論Ⅰ(災害看護学特論)	1前		2		1	1			1	
	危機管理分野看護学特論Ⅱ(リスクマネジメント看護学特論)	1前		2		1	1			1	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅰ(災害看護学特別演習)	1後		2		1	2	2		2	
	危機管理分野看護学特別演習Ⅱ(リスクマネジメント看護学特別演習)	1後		2		1					
	危機管理分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		2	1	2			
	危機管理分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		2	1	2			
	危機管理分野看護学特別研究	1～2通		8		2	1				
	危機管理分野看護学実践特別研究	1～2通		8		2	1				
小計(8科目)	-	0	28	0	2	2	2	0	0	3	
合計(60科目)	-	4	151	0	9	3	4	1	0	47	

【認可時又は届出時】

卒業要件及び履修方法

共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目から必修科目を含め8単位以上、専門科目の各分野から自分の追及する課題と密に関わる分野の特論と当該特論の特別演習のセット2科目及び、同分野の実習2科目に加え特別研究もしくは実践特別研究の何れか1科目を含む20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、小児専門看護師の資格を得ようとする者は共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目のうち必修科目に加え、「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目、「実践看護理論」「実践看護倫理学」「看護政策論」「実践看護管理論」「コンサルテーション論」「実践看護学教育の理論と方法」の6科目のうち3科目以上、「育成分野看護学特論Ⅱ～Ⅵ(小児看護学特論Ⅱ～Ⅵ)」、「育成分野看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(小児看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)」、「育成分野看護学課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「育成分野看護学課題研究」を履修すること。

【令和元年度】

卒業要件及び履修方法

共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目から必修科目を含め8単位以上、専門科目の各分野から自分の追及する課題と密に関わる分野の特論と当該特論の特別演習のセット2科目及び、同分野の実習2科目に加え特別研究もしくは実践特別研究の何れか1科目を含む20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、小児専門看護師の資格を得ようとする者は共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目のうち必修科目に加え、「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目、「実践看護理論」「実践看護倫理学」「看護政策論」「実践看護管理論」「コンサルテーション論」「実践看護学教育の理論と方法」の6科目のうち3科目以上、「育成分野看護学特論Ⅱ～Ⅵ(小児看護学特論Ⅱ～Ⅵ)」、「育成分野看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(小児看護学特別演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)」、「育成分野看護学課題実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」及び「育成分野看護学課題研究」を履修すること。

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域健康基礎科目	コミュニティ政策論	1前		1								1
	医療経済・経営論	1前		1								1
	医療政策論	1後		1								1
	医療危機管理論	1・2後		2								2
	健康危機管理論	1・2前		2								1
	小計(5科目)	-	0	7	0	0	0	0	0	0	0	6
高度看護実践基礎科目	実践看護理論	1前		2		1						
	実践看護研究概論	1前	2			1						
	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)	1後		2								1
	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)	1後		2								3
	文献検討	1前		2		1						1
	実践看護倫理学	1前		2								1
	看護政策論	1後		2								2
	実践看護管理論	1後		2								1
	コンサルテーション論	1前		2								2
	実践看護学教育の理論と方法	1前	2									2
	フィジカルアセスメント	1前		2								4
	臨床薬理学	1後		2								2
	病態生理学	1後		2								2
小計(13科目)	-	4	22	0	2	0	0	0	0	0	21	
地域生活支援分野看護学	地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)	1前		2		1						1
	地域生活支援分野看護学特論Ⅱ(精神看護学特論)	1前		2		1						
	地域生活支援分野看護学特論Ⅲ(がん看護学特論)	1前		2		1						
	地域生活支援分野看護学特論Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特論)	1前		2		1						
	地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)	1前		2		1	1					3
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)	1後		2		2			1			1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)	1後		2		1	1					1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅲ(がん看護学特別演習)	1後		2		1		1				
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)	1後		2		1						1
	地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)	1後		2		1	1					2
	地域生活支援分野看護学実習Ⅰ(実践)	1後・2前		2		5	2	1				1
	地域生活支援分野看護学実習Ⅱ(教育)	1後・2前		2		5	2	1				1
	地域生活支援分野看護学特別研究	1～2通		8		5						
	地域生活支援分野看護学実践特別研究	1～2通		8		5						
小計(14科目)	-	0	40	0	5	2	1	1	0	0	6	
育成分野看護学	育成分野看護学特論Ⅰ(小児看護学特論Ⅰ)	1前		2		1	1	1				
	育成分野看護学特論Ⅱ(小児看護学特論Ⅱ)	1前		2		1	1	1				
	育成分野看護学特論Ⅲ(小児看護学特論Ⅲ)	1前		2		1	1	1				
	育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)	1前		2		1	1	1				2

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
育成分野看護学	育成分野看護学特論V(小児看護学特論V)	1後		2		1	1	1				3
	育成分野看護学特論VI(小児看護学特論VI)	1後		2		1	1	1				3
	育成分野看護学特論VII(母性看護学特論)	1前		2		1						1
	育成分野看護学特別演習I(小児看護学特別演習I)	1前		2		1	1	1				
	育成分野看護学特別演習II(小児看護学特別演習II)	1後		2		1	1	1				3
	育成分野看護学特別演習III(小児看護学特別演習III)	1後		1		1	1	1				1
	育成分野看護学特別演習IV(小児看護学特別演習IV)	2前		1		1	1	1				
	育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習)	1後		2		1						
	育成分野看護学実習I(実践)	1後・2前		2		2	1	1				
	育成分野看護学実習II(教育)	1後・2前		2		2	1	1				
	育成分野看護学課題実習I	1後		2		1	1	1				1
	育成分野看護学課題実習II	2前		4		1	1	1				
	育成分野看護学課題実習III	2後		4		1	1	1				
	育成分野看護学特別研究	1～2通		8		2	1	1				
	育成分野看護学実践特別研究	1～2通		8		2	1	1				
	育成分野看護学課題研究	2通		2		1	1	1				
小計(20科目)	-	0	54	0	2	1	1	0	0		12	
危機管理分野看護学	危機管理分野看護学特論I(災害看護学特論)	1前		2		1	1					1
	危機管理分野看護学特論II(リスクマネジメント看護学特論)	1前		2		1	1					1
	危機管理分野看護学特別演習I(災害看護学特別演習)	1後		2		1	3	2				1
	危機管理分野看護学特別演習II(リスクマネジメント看護学特別演習)	1後		2		1						
	危機管理分野看護学実習I(実践)	1後・2前		2		2	1	2				
	危機管理分野看護学実習II(教育)	1後・2前		2		2	1	2				
	危機管理分野看護学特別研究	1～2通		8		2	1					
	危機管理分野看護学実践特別研究	1～2通		8		2	1					
	小計(8科目)	-	0	28	0	2	3	2	0	0		2
合計(60科目)	-	4	151	0	9	4	4	1	0		46	

卒業要件及び履修方法

共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目から必修科目を含め8単位以上、専門科目の各分野から自分の追及する課題と密に関わる分野の特論と当該特論の特別演習のセット2科目及び、同分野の実習2科目に加え特別研究もしくは実践特別研究の何れか1科目を含む20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究成果の審査及び最終試験に合格すること。

ただし、小児専門看護師の資格を得ようとする者は共通科目の地域健康基礎科目から2単位以上、高度看護実践基礎科目のうち必修科目に加え、「フィジカルアセスメント」「臨床薬理学」「病態生理学」の3科目、「実践看護理論」「実践看護倫理学」「看護政策論」「実践看護管理論」「コンサルテーション論」「実践看護学教育の理論と方法」の6科目のうち3科目以上、「育成分野看護学特論II～VI(小児看護学特論II～VI)」、「育成分野看護学特別演習II・III・IV(小児看護学特別演習II・III・IV)」、「育成分野看護学課題実習I・II・III」及び「育成分野看護学課題研究」を履修すること。

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- 兼任講師辞退の理由により、「実践看護研究方法論Ⅱ（質的研究）」の兼任配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」に変更。
- 原美弥子教授の辞任により、
 - 「地域生活支援分野看護学特論Ⅴ（広域看護学特論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に、「兼任・兼担2」を「兼任・兼担3」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ（広域看護学特別演習）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担2」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学実習Ⅰ（実践）」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に、「兼任・兼担0」を「兼任・兼担1」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学実習Ⅱ（教育）」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に、「兼任・兼担0」を「兼任・兼担1」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学特別研究」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学実践特別研究」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授5」に変更。
- 水野（今井）千奈津教授の辞任により、
 - 「育成分野看護学特論Ⅶ（母性看護学特論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に、「兼任・兼担0」を「兼任・兼担1」に変更。
 - 「育成分野看護学特別演習Ⅴ（母性看護学特別演習）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
 - 「育成分野看護学実習Ⅰ（実践）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
 - 「育成分野看護学実習Ⅱ（教育）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
 - 「育成分野看護学特別研究」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。
 - 「育成分野看護学実践特別研究」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」に変更。

【令和元年度】

- 岩瀬靖子准教授の辞任により、
 - 「地域生活支援分野看護学特論Ⅴ（広域看護学特論）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ（広域看護学特別演習）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学実習Ⅰ（実践）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担2」に変更。
 - 「地域生活支援分野看護学実習Ⅱ（教育）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」に、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担2」に変更。
 - 「危機管理分野看護学特別演習Ⅰ（災害看護学特別演習）」の専任教員等の配置を「准教授3」から「准教授2」に、「兼任・兼担1」を「兼任・兼担2」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	58 科目	0 科目	60 科目	2 科目 [-]	58 科目 [-]	0 科目 [-]	60 科目 [-]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{60} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	マリナーキャンパス 借用面積：98,395.12 m ² 借用期間：平成15年4 月1日より30年間 マリナーキャンパス前 駐車場 借用面積：9038.71m ² 借用期間：平成22年5 月29日より23年間			
	校 舎 敷 地	91,883 m ²	0 m ²	0 m ²	91,883 m ²				
	運 動 場 用 地	19,478 m ²	0 m ²	0 m ²	19,478 m ²				
	小 計	111,361 m ²	0 m ²	0 m ²	111,361 m ²				
	そ の 他	19,977 m ²	0 m ²	0 m ²	19,977 m ²				
	合 計	131,338 m ²	0 m ²	0 m ²	131,338 m ²				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 次世代型陸上養殖施設 の増設に伴う変更 (30)				
	37,409.54	0 m ²	0 m ²	37,409.54					
	37,148.66 m ²			37,148.66 m ²					
	(37,409.54 37,148.66m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(37,148.66m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	31 室	75 室	182 室	2 室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数						
	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）		22 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を 含む 図書： 16,214 [1,306] (元) 16,240 [1,337] (30) 14,789 [1,250] - 学術雑誌： 22 [7] (元) 28 [8] (30) 78 [12] - 電子ジャーナル： 13 [13] (元) 14 [14] -	
		冊	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕					
	看護学研究科 看護学専攻	23,933 [6,016] 21,795 [1,756] (20,950 [1,746])	115 [19] 70 [15] (76 [16])	18 [18] 19 [19] (20 [20])	347 (346)	928 (928)	0 (0)		
	計	23,933 [6,016] 21,795 [1,756] (20,950 [1,746])	115 [19] 70 [15] (76 [16])	18 [18] 19 [19] (20 [20])	347 (346)	928 (928)	0 (0)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数					
	1,872.06 m ²		417 席	103,000 冊					
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	2,390.27 m ²		テ ニ ス コ ー ト 2 面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	研究費・共同研究費・ 図書購入費・設備購入 費は研究科単位での算 出不能なため、学部と の合計 図書費には電子ジャー ナル・データベースの整備費 (運用コスト含む)を含 む。
		教員1人当り研究費等	459 千円	459 千円	図書購入費	2,500 千円	3,500 千円	3,500 千円	
	共同研究費等	17,750 千円	18,350 千円	設備購入費	0 千円	15,000 千円	15,000 千円		
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,180 千円	980 千円						
学生納付金以外の維持方法の概要		雑収入等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	千葉科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
薬学研究科										
薬学専攻										
博士課程	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.08	—	平成24	千葉県銚子市潮見町3	
薬科学専攻										
修士課程	2	10	—	20	修士 (薬科学)	0.20	—	平成22	千葉県銚子市潮見町3	
博士課程(後期)	3	5	—	15	博士 (薬科学)	0.06	—	平成22	同上	
危機管理学研究科										
危機管理学専攻										
修士課程	2	5	—	10	修士 (危機管理学)	0.70	—	平成20	千葉県銚子市潮見町3	
博士課程(後期)	3	3	—	9	博士 (危機管理学)	0.66	—	平成22	同上	
看護学研究科										
看護学専攻										
修士課程	2	5	—	10	修士 (看護学)	1.00	—	平成30	千葉県銚子市潮見町3	
大学院全体	—	31	—	76	—	—	—	—	—	
大学の名称	千葉科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
薬学部(6年制)										
薬学科	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.91	—	平成18	千葉県銚子市潮見町3	
生命薬科学科	4	—	—	—	学士 (生命薬科学)	—	—	平成22	同上	平成31年学生募集停止
危機管理学部						0.58				
危機管理学科	4	120	—	420	学士 (危機管理)	0.69	—	平成16	千葉県銚子市潮見町3	定員変更(20)
環境危機管理学科	4	—	—	—	学士 (危機管理)	—	—	平成24	同上	平成31年学生募集停止
保健医療学科	4	80	—	320	学士 (危機管理)	0.77	—	平成21	同上	
航空技術危機管理学科	4	40	—	160	学士 (危機管理)	0.29	—	平成22	同上	
動物危機管理学科	4	60	—	180	学士 (危機管理)	0.48	—	平成24	同上	定員変更(20)
看護学部										
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.00	—	平成26	千葉県銚子市潮見町3	
大学全体	—	500	—	2120	—	—	—	—	—	

大学の名称	岡山理科大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
理学研究科 修士課程	2	76	—	152	—	0.46	—	昭和49	—	
応用数学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (理学)	0.49	—	昭和55	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
化学専攻 修士課程	2	16	—	32	修士 (理学)	0.43	—	昭和49	同上	
応用物理学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士 (理学)	0.41	—	昭和49	同上	
総合理学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士 (理学)	0.28	—	昭和63	同上	
生物化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士 (理学)	0.38	—	平成4	同上	
臨床生命科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士 (理学)	0.83	—	平成20	同上	
動物学専攻 修士課程	2	4	—	8	修士 (理学)	0.37	—	平成24	同上	
理学研究科 博士課程（後期）	3	13	—	39	博士 (理学)	0.17	—	昭和53	—	
応用数学専攻 博士課程（後期）	3	4	—	12	博士 (理学)	0.16	—	昭和62	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
材質理学専攻 博士課程（後期）	3	9	—	27	博士 (理学)	0.18	—	昭和53	同上	
工学研究科 修士課程	2	66	—	132	—	0.52	—	平成2	—	
応用化学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士 (工学)	0.42	—	平成2	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
機械システム工学専攻 修士課程	2	13	—	26	修士 (工学)	0.49	—	平成2	同上	
電子工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (工学)	0.49	—	平成2	同上	
情報工学専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (工学)	0.30	—	平成8	同上	
知能機械工学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (工学)	0.87	—	平成21	同上	
生体医学専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (工学)	0.58	—	平成23	同上	
建築学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成23	同上	
工学研究科 博士課程（後期）	3	5	—	15	博士 (工学)	0.46	—	平成2	—	
システム科学専攻 博士課程（後期）	3	5	—	15	博士 (工学)	0.46	—	平成2	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
総合情報研究科 修士課程	2	13	—	26	—	0.38	—	平成13	—	
情報科学専攻 修士課程	2	7	—	14	修士 (総合情報)	0.42	—	平成13	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
社会情報専攻 修士課程	2	6	—	12	修士 (総合情報)	0.33	—	平成13	同上	
総合情報研究科 博士課程（後期）	3	2	—	6	—	1.16	—	平成15	—	
数理・環境システム専攻 博士課程（後期）	3	2	—	6	博士 (学術)	1.16	—	平成15	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
生物地球科学研究科 修士課程	2	12	—	24	—	1.03	—	平成28	—	
生物地球科学専攻 修士課程	2	12	—	24	修士 (理学)	1.03	—	平成28	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
大学院全体	—	187	—	394	—	—	—	—	—	

大学の名称	岡山理科大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	年度	年度		
理学部	4	585	—	2275	学士 (理学)	0.88	平成29	昭和39	—	
応用数学科	4	110	—	425	学士 (理学)	0.96	平成29	昭和39	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	定員変更(15)
化学科	4	75	—	295	学士 (理学)	0.82	平成29	昭和39	同上	定員変更(5)
応用物理学科	4	75	—	295	学士 (理学)	0.72	平成29	昭和41	同上	定員変更(5)
物理学専攻	4	45	—	175	学士 (理学)	0.86	平成29	平成14	同上	定員変更(5)
臨床工学専攻	4	30	—	120	学士 (理学)	0.52	平成29	平成14	同上	
基礎理学科	4	90	—	345	学士 (理学)	0.99	平成29	昭和50	同上	定員変更(15)
生物化学科	4	95	—	370	学士 (理学)	0.84	平成29	昭和63	同上	定員変更(10)
臨床生命科学科	4	95	—	370	学士 (理学)	0.83	平成29	平成16	同上	定員変更(10)
動物学科	4	45	—	175	学士 (理学)	1.00	平成29	平成20	同上	定員変更(5)
工学部	4	530	3年次 5	2100	学士 (工学)	0.95	平成29	昭和61	—	
バイオ・応用化学科	4	85	—	330	学士 (工学)	0.86	平成29	昭和61	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	定員変更(10)
機械システム工学科	4	90	—	355	学士 (工学)	1.02	平成29	昭和61	同上	定員変更(5)
電気電子システム学科	4	70	—	280	学士 (工学)	0.99	—	昭和61	同上	
情報工学科	4	95	—	370	学士 (工学)	1.02	平成29	平成4	同上	定員変更(10)
知能機械工学科	4	55	—	220	学士 (工学)	0.87	—	平成17	同上	
生命医療工学科	4	60	—	240	学士 (工学)	0.71	—	平成19	同上	
建築学科	4	75	3年次 5	305	学士 (工学)	1.07	—	平成23	同上	定員変更(5)
総合情報学部	4	100	—	380	学士 (総合情報学)	1.08	平成29	平成9	—	
情報科学科	4	100	—	380	学士 (総合情報学)	1.08	平成29	平成9	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	定員変更(20)
社会情報学科	4	—	—	—	学士 (総合情報学)	—	—	平成9	同上	平成29年学生募集停 止
生物地球学部	4	140	—	540	学士 (理学)	1.05	平成29	平成24	—	
生物地球学科	4	140	—	540	学士 (理学)	1.05	平成29	平成24	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	定員変更(20)
教育学部	4	130	—	520	学士 (教育学)	1.05	—	平成28	—	
初等教育学科	4	70	—	280	学士 (教育学)	1.10	—	平成28	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
中等教育学科	4	60	—	240	学士 (教育学)	1.00	—	平成28	同上	
経営学部	4	130	—	390	学士 (経営学)	1.09	—	平成29	—	
経営学科	4	130	—	390	学士 (経営学)	1.09	—	平成29	岡山県岡山市北区理 大町1番1号	
獣医学部(6年制)	6	140	—	280	学士 (獣医学)	1.13	—	平成30	—	
獣医学部(4年制)	4	60	—	120	学士 (獣医保健看護学)	0.68	—	平成30	—	
獣医学科	6	140	—	280	学士 (獣医学)	1.13	—	平成30	愛媛県今治市いこいの丘1-3	
獣医保健看護学科	4	60	—	120	学士 (獣医保健看護学)	0.68	—	平成30	同上	
大学全体	—	1815	5	6605	—	—	—	—	—	

大学の名称	倉敷芸術科学大学大学院									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
芸術研究科										
美術専攻 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.35	—	平成11	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
芸術制作表現専攻 博士課程(後期)	3	4	—	12	博士 (芸術)	0.33	—	平成13	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
産業科学技術研究科										
計算機科学専攻 博士課程(後期)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成13	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	平成29年学生募集停止
機能物質化学専攻 修士課程	2	8	—	16	修士 (産業科学技術)	0.12	—	平成11	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
博士課程(後期)	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	—	平成13	同上	
人間文化研究科										
人間文化専攻 修士課程	2	15	—	30	修士 (学術)	0.19	—	平成11	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
大学院(通信制)										
芸術研究科										
美術専攻(通信制) 修士課程	2	10	—	20	修士 (芸術)	0.05	—	平成14	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
産業科学技術研究科										
機能物質化学専攻(通信制) 修士課程	2	20	—	40	修士 (産業科学技術)	0.02	—	平成14	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
人間文化研究科										
人間文化専攻(通信制) 修士課程	2	30	—	60	修士 (学術)	0.03	—	平成14	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
大学院全体	—	99	—	204	—	—	—	—	—	
大学の名称	倉敷芸術科学大学									備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
芸術学部										
メディア映像学科	4	50	3年次 2	204	学士 (芸術)	0.99	—	平成16	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
デザイン芸術学科	4	55	—	220	学士 (芸術)	0.66	—	平成20	同上	
産業科学技術学部										
経営情報学科	4	—	3年次 —	—	学士 (産業科学技術)	—	—	平成23	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	平成29年学生募集停止 平成29年3年次編入学生募集停止
生命科学部										
生命科学科	4	50	—	200	学士 (生命科学)	0.71	—	平成16	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
健康科学科	4	80	—	330	学士 (健康科学)	0.68	—	平成16	同上	平成31年鍼灸専攻学生募集停止 平成31年専攻廃止 定員変更(△5)
動物生命科学科	4	55	3年次 2	224	学士 (生命科学)	0.71	—	平成18	同上	定員変更(△5)

生命医科学科	4	55	—	220	学士 (生命科学)	1.10	—	平成20	同上	定員変更(5)
危機管理学部										
危機管理学科	4	90	—	270	学士 (危機管理)	0.59	—	平成29	岡山県倉敷市連島町 西之浦2640番地	
大学全体	—	435	4	1668	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	原美弥子 <平成30年4月> 修士(看護学)	地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 地域生活支援分野看護学特別研究 地域生活支援分野看護学実践特別研究
専	教授	村山より子 <平成30年4月> 博士(学術)	育成分野看護学特論VII(母性看護学特論) ※ 育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習) ※ 育成分野看護学実習I(実践) 育成分野看護学実習II(教育) 育成分野看護学特別研究 育成分野看護学実践特別研究
専	教授	水野(今井)千奈津 <平成30年4月> 博士(工学)	育成分野看護学特論VII(母性看護学特論) ※ 育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習) ※ 育成分野看護学実習I(実践) 育成分野看護学実習II(教育) 育成分野看護学特別研究 育成分野看護学実践特別研究
専	教授	齋藤(梅田)君枝 <平成30年4月> 博士(医学)	危機管理分野看護学特論I(災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※ 危機管理分野看護学実習I(実践) 危機管理分野看護学実習II(教育) 危機管理分野看護学特別研究 危機管理分野看護学実践特別研究
専	教授	富樫千秋 <平成30年4月> 博士(看護学)	危機管理分野看護学特論II(リスクマネジメント看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習II (リスクマネジメント看護学特別演習) ※ 危機管理分野看護学実習I(実践) 危機管理分野看護学実習II(教育) 危機管理分野看護学特別研究 危機管理分野看護学実践特別研究
専	准教授	岩瀬靖子 <平成30年4月> 修士(看護学)	地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※
専	准教授	吉野由美子 <平成30年4月> 修士(学術) ※	地域生活支援分野看護学特別演習II(精神看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	村山より子 <平成30年4月> 博士(学術)	育成分野看護学特論VII(母性看護学特論) ※ 育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習) ※ 育成分野看護学実習I(実践) 育成分野看護学実習II(教育) 育成分野看護学特別研究 育成分野看護学実践特別研究
専	教授	齋藤(梅田)君枝 <平成30年4月> 博士(医学)	危機管理分野看護学特論I(災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※ 危機管理分野看護学実習I(実践) 危機管理分野看護学実習II(教育) 危機管理分野看護学特別研究 危機管理分野看護学実践特別研究
専	教授	岩瀬靖子 <平成30年4月> 修士(看護学)	地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※
専	准教授	吉野由美子 <平成30年4月> 修士(学術) ※	地域生活支援分野看護学特別演習II(精神看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	池西和哉 <令和元年9月> 修士(看護学)	地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 地域生活支援分野看護学特別研究 地域生活支援分野看護学実践特別研究
専	教授	村山より子 <平成30年4月> 博士(学術)	育成分野看護学特論VII(母性看護学特論) ※ 育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習) ※ 育成分野看護学実習I(実践) 育成分野看護学実習II(教育) 育成分野看護学特別研究 育成分野看護学実践特別研究
専	准教授	武者貴美子 <令和元年9月> Master of Science in Nursing (看護学修士)	育成分野看護学特別演習V(母性看護学特別演習) ※ 育成分野看護学実習I(実践) 育成分野看護学実習II(教育)
専	教授	齋藤(梅田)君枝 <平成30年4月> 博士(医学)	危機管理分野看護学特論I(災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※ 危機管理分野看護学実習I(実践) 危機管理分野看護学実習II(教育) 危機管理分野看護学特別研究 危機管理分野看護学実践特別研究
専	教授	富樫千秋 <平成30年4月> 博士(看護学)	危機管理分野看護学特論II(リスクマネジメント看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習II (リスクマネジメント看護学特別演習) ※ 危機管理分野看護学実習I(実践) 危機管理分野看護学実習II(教育) 危機管理分野看護学特別研究 危機管理分野看護学実践特別研究
専	准教授	吉野由美子 <平成30年4月> 修士(学術) ※	地域生活支援分野看護学特別演習II(精神看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	三村 邦裕 <平成30年4月> 博士(医学)	健康危機管理論
		健康危機管理論
兼任 教授	伊良部 徳次 <平成30年9月> 医学士	フィジカルアセスメント※
		フィジカルアセスメント※
兼任 教授	森 雅博 <平成30年9月> 薬学博士	臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
		臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任 教授	照井 祐介 <平成30年9月> 博士(生命科学)	病態生理学※
		病態生理学※
兼任 講師	松村(鈴木) 聡 <平成30年9月> 博士(保健学)	医療危機管理論※
		医療危機管理論※
兼任 講師	松下 啓一 <平成30年4月> 法学士	コミュニティ政策論
		コミュニティ政策論
兼任 講師	木村 憲洋 <平成30年4月> 工学士※	医療経済・経営論
		医療経済・経営論
兼任 講師	村上 正泰 <平成30年9月> 学士(経済学)	医療政策論
		医療政策論
兼任 講師	土井 徹 <平成30年9月> 医学博士	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
		実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
兼任 講師	長谷川 美貴 <平成30年9月> DoctorofPhilosophy(米園)	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
		実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
兼任 講師	富田 美加 <平成30年4月> 博士(図書館情報学)	文献検討※
		文献検討※
兼任 講師	鶴若 麻里 <平成30年4月> 博士(人間科学)	実践看護倫理学
		実践看護倫理学
兼任 講師	野村 陽子 <平成30年9月> 博士(政治学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	石橋 みゆき <平成30年9月> 博士(看護学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	叶谷 由佳 <平成30年9月> 博士(看護学)	実践看護管理論
		実践看護管理論
兼任 講師	永井 優子 <平成30年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※
兼任 講師	江波 戸和子 <平成30年4月> 修士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	三村 邦裕 <平成30年4月> 博士(医学)	健康危機管理論
		健康危機管理論
兼任 教授	伊良部 徳次 <平成30年9月> 医学士	フィジカルアセスメント※
		フィジカルアセスメント※
兼任 教授	森 雅博 <平成30年9月> 薬学博士	臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
		臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任 教授	照井 祐介 <平成30年9月> 博士(生命科学)	病態生理学※
		病態生理学※
兼任 講師	松村(鈴木) 聡 <平成30年9月> 博士(保健学)	医療危機管理論※
		医療危機管理論※
兼任 講師	松下 啓一 <平成30年4月> 法学士	コミュニティ政策論
		コミュニティ政策論
兼任 講師	木村 憲洋 <平成30年4月> 工学士※	医療経済・経営論
		医療経済・経営論
兼任 講師	村上 正泰 <平成30年9月> 学士(経済学)	医療政策論
		医療政策論
兼任 講師	土井 徹 <平成30年9月> 医学博士	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
		実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
兼任 講師	長谷川 美貴 <平成30年9月> DoctorofPhilosophy(米園)	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
		実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
兼任 講師	富田 美加 <平成30年4月> 博士(図書館情報学)	文献検討※
		文献検討※
兼任 講師	鶴若 麻里 <平成30年4月> 博士(人間科学)	実践看護倫理学
		実践看護倫理学
兼任 講師	野村 陽子 <平成30年9月> 博士(政治学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	石橋 みゆき <平成30年9月> 博士(看護学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	叶谷 由佳 <平成30年9月> 博士(看護学)	実践看護管理論
		実践看護管理論
兼任 講師	永井 優子 <平成30年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※
兼任 講師	江波 戸和子 <平成30年4月> 修士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 年月 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任 教授	三村 邦裕 <平成30年4月> 博士(医学)	健康危機管理論
		健康危機管理論
兼任 教授	伊良部 徳次 <平成30年9月> 医学士	フィジカルアセスメント※
		フィジカルアセスメント※
兼任 教授	森 雅博 <平成30年9月> 薬学博士	臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
		臨床薬理学※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任 教授	照井 祐介 <平成30年9月> 博士(生命科学)	病態生理学※
		病態生理学※
兼任 講師	松村(鈴木) 聡 <平成30年9月> 博士(保健学)	医療危機管理論※
		医療危機管理論※
兼任 講師	松下 啓一 <平成30年4月> 法学士	コミュニティ政策論
		コミュニティ政策論
兼任 講師	木村 憲洋 <平成30年4月> 工学士※	医療経済・経営論
		医療経済・経営論
兼任 講師	村上 正泰 <平成30年9月> 学士(経済学)	医療政策論
		医療政策論
兼任 講師	土井 徹 <平成30年9月> 医学博士	実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
		実践看護研究方法論Ⅰ(量的研究)
兼任 講師	長谷川 美貴 <平成30年9月> DoctorofPhilosophy(米園)	実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
		実践看護研究方法論Ⅱ(質的研究)
兼任 講師	富田 美加 <平成30年4月> 博士(図書館情報学)	文献検討※
		文献検討※
兼任 講師	鶴若 麻里 <平成30年4月> 博士(人間科学)	実践看護倫理学
		実践看護倫理学
兼任 講師	野村 陽子 <平成30年9月> 博士(政治学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	石橋 みゆき <平成30年9月> 博士(看護学)	看護政策論※
		看護政策論※
兼任 講師	叶谷 由佳 <平成30年9月> 博士(看護学)	実践看護管理論
		実践看護管理論
兼任 講師	永井 優子 <平成30年4月> 博士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※
兼任 講師	江波 戸和子 <平成30年4月> 修士(看護学)	コンサルテーション論※
		コンサルテーション論※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 佐知子 <平成30年4月> 修士(看護学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	新保 幸洋 <平成30年4月> 博士(文学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	田中 裕二 <平成30年4月> 博士(医学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	比田 井理恵 <平成30年4月> 看護学修士 フィジカルアセスメント※
兼任	講師	河野 伸子 <平成30年4月> 修士(看護学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	鈴木 新 <平成30年9月> 医学士 育成分野看護学特別演習Ⅱ(小児看護学特別演習Ⅱ)※
兼任	講師	赤瀬 智子 <平成30年9月> 博士(薬学) 臨床薬理学※
兼任	講師	岡田 忍 <平成30年9月> 博士(医学) 病態生理学※
兼任	講師	奥宮 暁子 <平成30年4月> 博士(医学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)※
兼任	講師	大塚 眞理子 <平成30年4月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※
兼任	講師	竹村 華織 <平成30年4月> 看護学修士 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)※
兼任	講師	松下 年子 <平成30年9月> 医学博士 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)※
兼任	講師	櫻井 智穂子 <平成30年9月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)※
兼任	講師	北村 知宏 <平成30年4月> 医学博士 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	谷口 明徳 <平成30年4月> 学士(医学) 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	石川 由美香 <平成30年9月> 修士(看護学) 育成分野看護学特論Ⅵ(小児看護学特論Ⅵ)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 佐知子 <平成30年4月> 修士(看護学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	新保 幸洋 <平成30年4月> 博士(文学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	田中 裕二 <平成30年4月> 博士(医学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	比田 井理恵 <平成30年4月> 看護学修士 フィジカルアセスメント※
兼任	講師	河野 伸子 <平成30年4月> 修士(看護学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	鈴木 新 <平成30年9月> 医学士 育成分野看護学特別演習Ⅱ(小児看護学特別演習Ⅱ)※
兼任	講師	赤瀬 智子 <平成30年9月> 博士(薬学) 臨床薬理学※
兼任	講師	岡田 忍 <平成30年9月> 博士(医学) 病態生理学※
兼任	講師	奥宮 暁子 <平成30年4月> 博士(医学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)※
兼任	講師	大塚 眞理子 <平成30年4月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※
兼任	講師	竹村 華織 <平成30年4月> 看護学修士 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)※
兼任	講師	松下 年子 <平成30年9月> 医学博士 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)※
兼任	講師	櫻井 智穂子 <平成30年9月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)※
兼任	講師	北村 知宏 <平成30年4月> 医学博士 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	谷口 明徳 <平成30年4月> 学士(医学) 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	石川 由美香 <平成30年9月> 修士(看護学) 育成分野看護学特論Ⅵ(小児看護学特論Ⅵ)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	堀田 佐知子 <平成30年4月> 修士(看護学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	新保 幸洋 <平成30年4月> 博士(文学) 実践看護学教育の理論と方法※
兼任	講師	田中 裕二 <平成30年4月> 博士(医学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	比田 井理恵 <平成30年4月> 看護学修士 フィジカルアセスメント※
兼任	講師	河野 伸子 <平成30年4月> 修士(看護学) フィジカルアセスメント※
兼任	講師	鈴木 新 <平成30年9月> 医学士 育成分野看護学特別演習Ⅱ(小児看護学特別演習Ⅱ)※
兼任	講師	赤瀬 智子 <平成30年9月> 博士(薬学) 臨床薬理学※
兼任	講師	岡田 忍 <平成30年9月> 博士(医学) 病態生理学※
兼任	講師	奥宮 暁子 <平成30年4月> 博士(医学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅰ(リハビリテーション看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅰ(リハビリテーション看護学特別演習)※
兼任	講師	大塚 眞理子 <平成30年4月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※
兼任	講師	竹村 華織 <平成30年4月> 看護学修士 地域生活支援分野看護学特論Ⅴ(広域看護学特論)※ 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅴ(広域看護学特別演習)※
兼任	講師	松下 年子 <平成30年9月> 医学博士 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅱ(精神看護学特別演習)※
兼任	講師	櫻井 智穂子 <平成30年9月> 博士(看護学) 地域生活支援分野看護学特別演習Ⅳ(エンド・オブ・ライフケア看護学特別演習)※
兼任	講師	北村 知宏 <平成30年4月> 医学博士 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	谷口 明徳 <平成30年4月> 学士(医学) 育成分野看護学特論Ⅳ(小児看護学特論Ⅳ)※ 育成分野看護学特論Ⅴ(小児看護学特論Ⅴ)※
兼任	講師	石川 由美香 <平成30年9月> 修士(看護学) 育成分野看護学特論Ⅵ(小児看護学特論Ⅵ)※

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	田村 恵美 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	田村 恵美 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	田村 恵美 <平成30年9月> 看護学修士
		育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※			育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※			育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※
兼任	講師	石井 由美 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	石井 由美 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	石井 由美 <平成30年9月> 看護学修士
		育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※			育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※			育成分野看護学特論VI (小児看護学特論VI) ※
兼任	講師	門間 智子 <平成30年9月> 修士(看護学)	兼任	講師	門間 智子 <平成30年9月> 修士(看護学)	兼任	講師	門間 智子 <平成30年9月> 修士(看護学)
		育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※			育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※			育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※
兼任	講師	高木 典子 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	高木 典子 <平成30年9月> 看護学修士	兼任	講師	高木 典子 <平成30年9月> 看護学修士
		育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※			育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※			育成分野看護学特別演習II (小児看護学特別演習II) ※
兼任	講師	北澤 克彦 <平成30年9月> 医学士	兼任	講師	北澤 克彦 <平成30年9月> 医学士	兼任	講師	北澤 克彦 <平成30年9月> 医学士
		育成分野看護学特別演習III (小児看護学特別演習III) ※			育成分野看護学特別演習III (小児看護学特別演習III) ※			育成分野看護学特別演習III (小児看護学特別演習III) ※
兼任	講師	石井 光子 <平成30年9月> 医学博士	兼任	講師	石井 光子 <平成30年9月> 医学博士	兼任	講師	石井 光子 <平成30年9月> 医学博士
		育成分野看護学課題実習I			育成分野看護学課題実習I			育成分野看護学課題実習I
兼任	講師	山崎 達枝 <平成30年4月> 修士(心身健康科学)	兼任	講師	山崎 達枝 <平成30年4月> 修士(心身健康科学)	兼任	講師	山崎 達枝 <平成30年4月> 修士(心身健康科学)
		危機管理分野看護学特論I (災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※			危機管理分野看護学特論I (災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※			危機管理分野看護学特論I (災害看護学特論) ※ 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※
兼任	講師	布施 淳子 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	布施 淳子 <平成30年4月> 博士(医学)	兼任	講師	布施 淳子 <平成30年4月> 博士(医学)
		危機管理分野看護学特論II (リスクマネジメント看護学特論) ※			危機管理分野看護学特論II (リスクマネジメント看護学特論) ※			危機管理分野看護学特論II (リスクマネジメント看護学特論) ※
			兼任	講師	原美 弥子 <平成30年4月> 看護学修士	兼任	講師	原美 弥子 <平成30年4月> 看護学修士
					地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育)			地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育)
			兼任	講師	川端 愛 <平成30年9月> 修士(看護学)	兼任	講師	川端 愛 <平成30年9月> 修士(看護学)
					実践看護研究方法論II (質的研究)			実践看護研究方法論II (質的研究)
			兼任	講師	グレッグ 美鈴 <平成30年9月> Ph.D. in nursing program	兼任	講師	グレッグ 美鈴 <平成30年9月> Ph.D. in nursing program
					実践看護研究方法論II (質的研究)			実践看護研究方法論II (質的研究)
			兼任	講師	蛭田 明子 <平成30年9月> 博士(看護学)	兼任	講師	蛭田 明子 <平成30年9月> 博士(看護学)
					実践看護研究方法論II (質的研究)			実践看護研究方法論II (質的研究)
			兼任	講師	久米 美代子 <平成30年9月> 博士(情報学)	兼任	講師	久米 美代子 <平成30年9月> 博士(情報学)
					育成分野看護学特論VIII (母性看護学特論) ※			育成分野看護学特論VIII (母性看護学特論) ※
						兼任	講師	岩瀬 晴子 <令和元年4月> 修士(看護学)
								地域生活支援分野看護学特論V (広域看護学特論) ※ 地域生活支援分野看護学特別演習V (広域看護学特別演習) ※ 地域生活支援分野看護学実習I (実践) 地域生活支援分野看護学実習II (教育) 危機管理分野看護学特別演習I (災害看護学特別演習) ※

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 ・ その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
 ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の誕生日**を記入してください。
 ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・一身上の都合により、原美弥子教授退職。
- ・一身上の都合により、水野（今井）千奈津教授退職。

【令和元年度】

- ・一身上の都合により、岩瀬靖子准教授退職。
- ・池西和哉准教授就任予定。平成31年3月に専任教員採用等変更書（AC）提出済。
- ・武者貴美子准教授就任予定。平成31年3月に専任教員採用等変更書（AC）提出済。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）**を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
6	4	6
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学院】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計（A）	教授	准教授	講師	助教	計（B）
11	4	4	1	20	9	3	4	1	17
(9)	(4)	(4)	(1)	(18)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
11	3	6			9	3	5		
(9)	(3)	(6)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計（C）	教授	准教授	講師	助教	計（D）
9	3	4	1	17	9	5	4	1	19
[Δ2]	[Δ1]	[-]	[-]	[Δ3]	[Δ2]	[1]	[-]	[-]	[Δ1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
9	3	5			10	3	6		
[Δ2]	[-]	[Δ1]			[Δ1]	[-]	[-]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「**現在（報告時）の完成年度時の状況**」には、「**現在（報告時）の状況**」に記入した数字に、**教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 （B））の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 （C））の教員 うち、定年を延長し て採用する教員数
65	2	2
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{17}{20} = \boxed{85} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{2}{17} = \boxed{11.76} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) -① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	原 美弥子	H30.3	選択	地域生活支援分野看護学特論V（広域看護学特論）※	①	H30.3.31付け一身上の都合のため辞任（30）			
				選択	地域生活支援分野看護学特別演習V（広域看護学特別演習）※	①				
				選択	地域生活支援分野看護学実習I（実践）	①				
				選択	地域生活支援分野看護学実習II（教育）	①				
				選択	地域生活支援分野看護学特別研究	①				
2	教授	水野（今井）千奈津	H30.12	選択	育成分野看護学特論VII（母性看護学特論）※	①	H30.3.31付け一身上の都合のため辞任（30）			
				選択	育成分野看護学特別演習V（母性看護学特別演習）	①				
				選択	育成分野看護学実習I（実践）	①				
				選択	育成分野看護学実習II（教育）	①				
				選択	育成分野看護学特別研究	①				
合計（D）				後任補充状況の集計（E）						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
2	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	12	科目	選択	12	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	12	科目	計	12	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1	准教授	岩瀬 靖子	H31.3	選択	地域生活支援分野看護学特論V（広域看護学特論）※	①	H31.3.31付け一身上の都合のため辞任（元）			
				選択	地域生活支援分野看護学特別演習V（広域看護学特別演習）※	①				
				選択	地域生活支援分野看護学実習I（実践）	①				
				選択	地域生活支援分野看護学実習II（教育）	①				
				選択	危機管理分野看護学特別演習I（災害看護学特別演習）※	①				
合計（F）				後任補充状況の集計（G）						
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	5	科目	選択	5	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	5	科目	計	5	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計（D）+（F）				後任補充状況の集計（E）+（G）						
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
3	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	17	科目	選択	17	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	17	科目	計	17	科目	計	0	科目

(3) 一④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{3}{20} = \boxed{15} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 一⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
1		該当なし					
合計					後任補充状況の集計		
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)	
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員が研究科開設前年度中に2名、一身上の都合により退職することとなった。退職した教員は地域生活支援分野看護学（広域看護学）及び育成分野看護学（母性看護学）の教育を担っていた。平成30年度の志願者及び入学者には当該分野を希望する者はおらず、教育研究を行う上で支障はなかったものの、設置計画を遵守するため、後任人事、教員の補充計画について、学部教育及び学部・研究科の将来構想を含め学内で慎重に検討を行った。結果、この度、適任者が見つかったため、平成31年3月のAC教員審査にて大学院の専任教員補充を行う予定である。辞任した原美弥子教授及び岩瀬靖子准教授は兼任教員として教育に携わるほか、担当の科目は全て複数の専任教員で担当している科目であることから、教育の質的担保は出来ると考える。学生への周知に関しては、オリエンテーションで周知しているほか、シラバスや時間割への表記変更にて対応する。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	<p>留意事項</p> <p>ディプロマ・ポリシーについて、教育研究する能力と研究・教育に取り組む基礎的能力が別の項目として揚げられているが、内容が重複しているため、学生に分かりやすく整理すること。</p>	<p>履行中</p> <p>ディプロマ・ポリシーに関しては、より明確に学生に内容が伝わるよう現在文言を精査中である。(30)</p>	<p>早い段階でディプロマ・ポリシーの文言を精査し、必要に応じてカリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーの見直しも行う予定である。(30)</p>
	<p>留意事項</p> <p>倫理審査規程は最新の指針等に基づき、整備すること。</p>	<p>履行中</p> <p>「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の一部改正（平成29年2月28日付）に基づき、これに関わる関連規程の整備を検討中である。(30)</p>	<p>平成30年度中に、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の一部改正（平成29年2月28日付）に基づき、これに関わる関連規程を整備する予定である。(30)</p>
<p>認可時 (29年)</p>	<p>改善意見</p> <p>既設校の今後の定員充足の在り方について検討し、定員未充足の改善に取り組むこと。 (倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科、航空技術危機管理学科)</p>	<p>履行中</p> <p>【千葉科学大学薬学部生命薬科学科】 6年制の薬学科と異なり、4年制の生命薬科学科では薬剤師受験資格が得られず、就職に直結しないため、全国的に4年制の薬科学科系の定員充足状況は厳しい状況にある。本学でも学修内容や就職先、教育内容を周知するために広報活動に積極的に取り組むとともに、平成30年度には入学定員を5名減じたが、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。(30)</p> <p>【危機管理学部環境危機管理学科】 定員を充足するための対策として、平成29(2017)年度から教育・研究内容の充実を目指し、新たなコース設定を行い、学科、各研究室で行っている教育・研究内容が受験生に伝わるよう研究テーマ別のリーフレットの作成、これまでの卒業生の具体的な就職先、職種を提示すること等により広報活動を展開したが、就職に直結する資格等がないことから卒業後の就職先のイメージが難しく、志願者、入学者ともに伸び悩み、本年度入試においても厳しい状況が続いている。(30)</p>	<p>履行中</p> <p>【千葉科学大学薬学部生命薬科学科】 平成31年度には薬学部の教育内容を見直し、生命薬科学科については、募集を停止する予定である。(30)</p> <p>【危機管理学部環境危機管理学科】 平成31年度には一部の教育内容を関連の深い同学部の学科に移行し、環境危機管理学科については、募集を停止する予定である。(30)</p>

認可時 (29年)	既設校の今後の定員充足の在り方について検討し、定員未充足の改善に取り組むこと。 (倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科、千葉科学大学薬学部生命薬科学科、危機管理学部環境危機管理学科、航空技術危機管理学科)	改善意見	【危機管理学部航空技術危機管理学科】 平成29年度から、学科名称を航空関連の学科であることが明確に伝わるよう、「航空技術危機管理学科」へと名称変更を行った。また、平成29年11月に航空機の操縦士を養成する私立大などによる民間機関が、一般社団法人「航空機操縦士育英会」を設立し、本学も平成30年3月には正式に加盟した。これらにより、本学においてもパイロットの養成を行なっていることが周知され、若干ではあるがエアラインパイロットを目指す志願者・入学者ともに増加傾向にある。(30)	履行中	【危機管理学部航空技術危機管理学科】 今後も教育研究内容の充実、受験生、保護者への情報提供の方法・内容等について当該学科のみならず、全学的な広報委員会において積極的に検討し更なる改善を目指す。(30)
			【倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科】 全国的に芸術分野を志望する受験生の減少や、受験生は関西・関東方面の芸術大学を検討しており、地元(岡山県内)、近隣県ともに志願者および入学者が伸び悩んでいる。平成28年度に下がった入学者数からは微増傾向にあるため、継続的な学科内の改革に取り組んでいく。(30)	履行中	【倉敷芸術科学大学芸術学部デザイン芸術学科】 定員を充足するための対策として、在学生への教育面・就職面の強化を図る。教員が外部発表の場を近隣県等で実施することで倉敷芸術科学大学芸術学部を発信する。また、地域連携による地域に信頼感を生む共同プロジェクトの推進を図る。高校生コンクール、オープンキャンパス等で、本学入学者への動機に繋がるプログラムやインセンティブを実施することで、定員の充足を図り改善を目指す。(30)
設置計画履行状況調査時 (30年)	該当なし				

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項(学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。)と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学研究科 看護学専攻（修士課程）>

（1）設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
① 施設・設備 校舎（37,148.66㎡）	① 学生の修学環境を改善するため、次世代型陸上養殖施設（260.88㎡）を増設した。（30）
② 取得可能な資格 公益財団法人日本看護協会が認定する「小児看護」専門看護師の資格取得が可能な教育課程を整備している。	② 公益財団法人日本看護協会が認定する「小児看護」専門看護師の資格取得が可能な教育課程を整備した。（元）

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>平成23年度より学務部が主体となりFD活動を企画・実施してきたが、平成25年度には副学長が長を務める全学的なFDワーキンググループを発足し、更に平成26年度では、FDワーキンググループを発展させ、学長を委員長としたFD・SD委員会を設置した。また、FD・SD委員会内に4つの検討部会（FD講演会、授業改善アンケート、公開講義、意見交換会）を設置し、それぞれの項目について検討を行い、FD・SD委員会に答申して全学的なFD活動の企画・実施を行った。平成28年度以降は、4つの検討部会をFD部会として一つに統合し、「教育・研究に関する教職員の能力開発」、「教授内容・方法の改善・向上のための研修」、「教育活動・授業における協力支援に関する事項」について企画・実施を行っている。</p> <p>b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）</p> <p>平成30年度はFD部会を6月に開催し、授業改善アンケートの検討、授業参観（公開講義）の在り方、FD講演会の開催について議論を行った。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>(1)教授内容及び方法の改善と向上のための研修に関すること。 (2)学生の満足度向上のための教育活動及び授業における協力支援に関すること。 (3)その他教育及び研究に関する教職員の能力開発を全学的に推進するために必要なこと。</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ FD講演会 ・ 授業改善アンケート ・ 学修成果に係る自己評価アンケート <p>b 実施方法</p> <p>FD講演会</p> <p>教育力の向上を目指し、平成30年度は外部講師を招いて「私立大学のガバナンスと財政課題について」に関する講演会のほか、平成26年度から継続している、文部科学省「地(知)の拠点整備事業(COC)」申請(申請テーマ:「防災・郷土教育を積み上げた、人に優しく安心して住める地域創り」)に則した防災教育、郷土教育に関する内容で講演会を実施した。令和元年度においても、外部講師を招き、教育力向上を目的とした講演会を実施する。</p> <p>授業改善アンケート</p> <p>大学院についても、平成29年度から教育課程編成及び教育方法改善に向けて、指導方法や教育課程についての設問形式(自由記載)による、大学院教育改善アンケートを実施している。また、平成30年度より学生アンケートシステムを導入し、WEBでの実施方法を取り入れた。令和元年度においても同様に、設問形式(自由記載)によるWEBでのアンケートを実施する。</p>
--

c 開催状況（教員の参加状況含む）

平成30年 6月 8日 第1回 「銚子学」

参加率 18.8%

平成30年 6月15日 第2回 「高等教育におけるactive learningのためのICT活用法～Moodleのエンドユーザー的使用法～」

参加率 25.3%

平成30年 9月13日 第3回 「本学の教職・学芸員センター教員による教育方法講習会」

参加率 22.2%

平成30年12月10日 第4回 「私立大学のガバナンスと財政課題について」

参加率 34.4%

平成31年 2月20日 第5回 「COC最終成果報告会」

参加率 33.3%

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

平成26年度より学長を委員長としたFD・SD委員会を設置し、全学的にFD活動の意義・目的を共有して推進するとともに、FD部会において、授業改善アンケートの内容を改めて検討・改善し、初回授業から最終回までの全体評価・意見を求め、授業方法の抜本的な改善点・長所を求めた。また、「高等教育におけるactive learningのためのICT活用法」や「教育方法講習会」といった講演会を通して、教育力の向上も踏まえ、授業改善に繋げている。

令和元年度においても、授業改善アンケート及び学修成果に係る自己評価アンケートやFD講演会を積極的に行い、これらを通して授業改善に取り組む。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成30年度の授業改善アンケートについては、例年通り春学期に1回（7月）、秋学期に1回（1月）、設問形式（自由記載）にて実施している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業改善アンケート結果を教務課より授業担当教員に配布し、アンケートに対する授業担当教員の見解を求め、見解を付したものを冊子にまとめ、学生ロビーなど学内2ヶ所において学生や他の教職員へ公表している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）

該当なし

- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

該当なし

- c 委員会の審議事項等

該当なし

- d その他

該当なし

② 審議状況

- a 審議した内容

該当なし

- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

a 学生の教育に関して

1期生は、4名の入学であったが、1名が退学し3名が2年次に進級をしている。3名共に1年次に必修の単位を概ね20単位取得しており、今後特別研究の履修に向けて、研究計画から論文作成に向けての指導が円滑に行くように導いていく。2期生は、6名の入学を迎えることができた。学生には、入学式後にオリエンテーションを行い、修了までのカリキュラム説明、履修計画の立て方、大学院での学び、施設（図書館・大学院生室等）の活用等についてガイダンスを行った。また、学生から履修にあたっての要望等を聞き、円滑に学修できるように導いた。更に先輩1期生から、体験に基づくアドバイスがもらえるように、交流・意見交換の場を設けた。4月第2週目より授業開始となった。非常勤担当の科目に関しては、学生の状況（14条特例）と当該教員との時間調整を行い、円滑に希望する授業が履修できるように導いた。学生個々に対して、研究指導教員を早期に決定し各自の研究テーマ・計画書作成へと円滑に導くために、修士論文発表までの経緯を説明する。

b 教員組織について

教員組織は、17名の専任教員で構成される。この内、研究指導教員9名、研究指導補助教員3名を含む。科目内容を鑑み非常勤講師にて担当する科目もある。当該科目の円滑な運営にあたり、専任教員が非常勤講師と連携を密にとり円滑な運営を図っている。

c 地域連携について

本研究科は、地域看護職のキャリア発達・看護の質向上を図る意味からも、地域での実践者が入学できるように「社会人学び直しプログラム」を開講し、地域の保健医療福祉施設ならびに看護職との連携を図っている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・平成29年度に受審した認証評価（日本高等教育評価機構）における自己点検評価書及び評価結果については、平成30年4月末に公表しているが、看護学研究科においては完成年度を経ていないことから審査対象外であった。第三期認証評価を平成36年度に受審し、自己点検評価書及び評価結果を平成37年5月に公表する予定である。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公表

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成29年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受け、適合と判定されたが、看護学研究科においては完成年度を経ていないことから審査対象外であった。第三期の認証評価は平成36年度に受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 (有 無)

b 公表有の場合の公表（予定）時期 (令和元年 7月 1日)

b 公表無の場合の特段の理由 ()

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。